

事務事業名		JR大船渡駅乗車券類簡易委託発売事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間		予算科目				
	施策名	03 交流基盤の充実					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 公共交通機関の利便性維持と利用促進					01	02	01	06	31
根拠法令											
所属	部課名	商工観光部商工観光物産課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成4 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	商工係	電話	0192-27-3111							
			内線	113							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) JRから委託を受けた市が、大船渡大通り商店街振興組合に再委託し、乗車券類の販売をしてもらう事業。 主な業務は、委託契約の締結、毎月の売上報告受け、委託料の支払い。 事業費は、乗車券類販売の委託料として支出される。						全体計画(期間限定複数年度のみ)					
						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
							事業費計(A)	0			
							人件費	正規職員従事人数			
								延べ業務時間			
								人件費計(B)	0		
								トータルコスト(A)+(B)	0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
販売実績の確認(月例)、利用促進のためのPR		ア	販売実績の確認回数
		イ	市広報への利用PR掲載回数
		ウ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)			
販売実績の確認(月例)、利用促進のためのPR			
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
(直接の対象)大船渡大通り商店街振興組合		名称	
(間接の対象)JR大船渡線大船渡駅利用者		単位	
		カ	大船渡大通り商店街振興組合
		キ	
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
JR大船渡線利用者の利便が図られる。		名称	
JR大船渡駅を利用してもらう。		単位	
		サ	事業収入における補助金額の割合
		シ	
		ス	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
公共交通機関が快適に利用できる。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
事業費	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	500	500	800	800	1,400	1,500
	事業費計(A)	千円	500	500	800	800	1,400	1,500
	人件費	人	1	1	1	1	1	1
人件費	延べ業務時間	時間	10	10	10	10	10	10
	人件費計(B)	千円	40	40	40	40	40	40
	トータルコスト(A)+(B)	千円	540	540	840	840	1,440	1,540
活動指標	ア	回	12	12	12	12	12	12
	イ	回	0	0	0	0	0	0
	ウ							
対象指標	カ	団体	1	1	1	1	1	1
	キ							
	ク							
成果指標	サ	%	16.1	16.6	28.0	30.1	47.0	25.0
	シ							
	ス							

事務事業ID	0378	事務事業名	JR大船渡駅乗車券類簡易委託発売事業
--------	------	-------	--------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ JR大船渡駅の無人化を回避するため、平成4年度に市とJRが乗車券類簡易委託発売業務を契約し、大船渡大通り商店街振興組合に再委託したが、平成7年度から赤字となっていた。そのため、平成15年度から委託料として支出している。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 少子化による学生の減少や、モータリゼーションの発達による自家用車利用者の増加等により、鉄道をはじめとする公共交通機関の利用率は、年々減少傾向にある。新幹線を利用する際にも、県内陸部まで自家用車で移動するため、大船渡線が利用されることは少ない。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 事業対象者からは、JR利用者の減少に伴い業務の継続は難しい状況が続いているが、大船渡駅の無人化を防ぐため、事業は継続していきたいとの意向を示されてきた。利用者からは、企画乗車券等の発売もできるような利便性の向上が求められている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] JR大船渡駅の無人化による利用者の減少は、地元商店街の衰退やJR大船渡線の存続に影響を及ぼすもので、本事業の継続によってその防止が図られている。	
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 地元商店街の衰退を防止するとともに、地域住民の貴重な足であるJR大船渡線を存続していくため、JR大船渡線利用者の減少を防止しなければならないため。	
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] JR大船渡駅は対象である大船渡大通り商店街の玄関口となっており、商店街振興との関わりが深い。	
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 市広報への掲載回数の増加やイベントの企画など、PRの徹底を図ることで利用率を高める。	
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] JR大船渡駅が無人化され、人の出入りが減少することで、商店街の活力が衰える。JR大船渡線の利用率が減少し、同線の廃止問題にも波及する。	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 類似事業もなく、本事業以外での方法は現時点ではない。	
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 本事業の継続のため現在支出している金額は、必要最小限のものである。	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 受託者である大船渡大通り商店街振興組合では、必要最小限の人員により業務を行っている。	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 受託者においても相応の負担分がある。	

事務事業ID	0378	事務事業名	JR大船渡駅乗車券類簡易委託発売事業
--------	------	-------	--------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 売上額は減少傾向にあり、利用率の向上を図らなければならず、そのためPR活動の徹底など効果的な方策を検討・実施していかなければならない。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業の成果をさらにあげていくためには、利用率の向上が図れるよう、周知の徹底が必要。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 PRの徹底ほか、利用者の利便性を高めるために、大船渡駅での企画乗車券購入を可能とするようにJRに対して働きかけを行うことが必要。																							

(職名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	商工観光物産課長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 事業の意図等を的確に把握しており、適切な評価となっている。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 利用率を高めるため、企画列車の運行等について、JRに働きかけすることを検討する。																						
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
